

## 2022年センター報告・日誌

### 1. 社会科学古典資料センター運営

#### 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

2021年4月1日以降の運営を継続した。すなわち、

- ・授業利用と見学受入を休止。
- ・利用受付は1日1人とし、利用した閲覧席とロッカーは消毒したうえで次回利用まで1週間空ける。
- ・15分ずつ開館時刻の繰下げ・閉館時刻の繰上げを行い、施設設備の消毒時間にあてる。
- ・学外者の利用を受付（実際には利用申込なし）。
- ・貸出資料および複写物の郵送は原則不可。

ただし、1月29日に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための一橋大学の活動指針が再び「レベル3」（制限（中））に引き上げられていたことから、4月1日から5月30日まで学外者の利用受付を再休止した。

6月1日に本学活動指針が「レベル1」（一部制限）に戻ったことに伴い、学外者の利用受付を再々開した。

#### 西洋古典資料保存のためのネットワーク「ほぞんネット」

文部科学省共通政策課題（文化的・学術的な資料等の保存等）の予算配分を受けて2016～2019年度に実施した「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の一環として立ち上げた西洋古典資料保存のためのネットワーク「ほぞんネット」を活用し、2022年も継続して、地震対策、虫害・IPM、閲覧用品、フォーラムなどの情報交換を行った。

### 2. 研究事業

#### 科学研究費基盤研究（B）研究グループへの協力

科学研究費助成事業（基盤研究（B）「啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究」、2019年度～2022年度、課題番号：19H01200、研究代表者：小関武史）研究グループが主催するオンライン・ミニ・シンポジウム「西洋古典籍を巡る書誌と資料研究法の現在—『水田文庫貴重書目録補遺；水田珠枝文庫貴重書所収』を中心に」（1月22日開催）を共催し、その記録を Study Series No.80 として刊行した。

また、12月3日にはオンライン・ミニ・シンポジウム「国内所蔵の西洋古典籍をいかに活かすか—早稲田大学図書館所蔵コルヴェア文庫所収の貴重書を中心に—」を共催し、その記録を2023年度に Study Series で刊行する予定である。

#### 共同研究

国立民族学博物館共同研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備—保存科学の視点から」（2017年度～2021年度、研究代表者：園田直子）に馬場助教が参加した。

その他

Popular Culture and the Deep Past 2022, The Experimental Archaeology of Medieval and Renaissance Food, Center for Medieval and Renaissance Studies, The Ohio State University に馬場助教が参加し, "The Star Chamber Dinner Account during the Easter Term in 1636" というテーマで発表を行った。(2月11日)

### 3. 資料の公開・利用促進

ラウ『国民経済学要綱』のデジタル化

メンガー手択本であるラウ『国民経済学要綱』(Grundsätze der Volkswirtschaftslehre / von Karl Heinrich Rau. -- 7. Ausg. -- Leipzig ; Heidelberg : C.F. Winter, 1863. -- (Lehrbuch der politischen Oekonomie ; 1. Bd.) メンガー文庫所蔵【Menger/Comp.:266:1】)のデジタル化を行った。近日中に一橋大学機関リポジトリ HERMES-IR にて公開する予定である。

メンガー文庫目録のデジタル化公開

メンガー文庫の冊子目録2冊をデジタル化し, HERMES-IR にて公開した。

<https://hdl.handle.net/10086/74273>

### 4. 講習会

西洋社会科学古典資料講習会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため,引き続き2022年も西洋社会科学古典資料講習会の開催を中止した。

西洋社会科学古典資料セミナー

西洋社会科学古典資料講習会に代えて,2021年度に引き続き,10月26日にオンラインで西洋社会科学古典資料セミナーを開催した。大学図書館職員をはじめ,国立国会図書館や美術館,博物館,アーカイブズ等の職員,研究者,学生,西洋古典製本関係者など幅広い層から252名の受講申込(ライブ受講またはアーカイブ視聴申込)があり,うち154名が当日ライブで受講した。

プログラムは以下のとおり。

書誌学	西洋古典籍書誌の基礎知識 高野 彰 (元跡見学園女子大学文学部教授)
書誌学	15 - 16 世紀の印刷本のデータベースの概要とその活用 雪嶋 宏一 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)
資料保存・管理	図書館 IPM 今日からはじめる日常管理 井上 桃子 (株式会社明治クリックス 文化財 IPM 事業部課長)

西洋古典資料保存地域講習会

通算3回目となる地域保存講習会を,12月15日に,北海道地区大学図書館協議会のスキルアップセミナーとして,北海道大学附属図書館において同協議会と共催した。午前中の実習は

8名、午後の事例報告と講義には16名の参加があった。なお、実習にあたっては、ほぞんネット協力員の高石しのぶ氏（北海道大学）の協力を得た。

プログラムは以下のとおり。

午前 実習（資料のクリーニング、保護ジャケット作製、書見台作製）  
篠田 飛鳥（一橋大学社会科学古典資料センター）

午後 事例報告 「北海学園大学附属図書館の図書修復について」  
河井 裕司（北海学園大学）

「北海道大学附属図書館における資料の保存と課題」

川村 幸、細井真弓美（北海道大学附属図書館）

「一橋大学附属図書館の水損への対応」

堀越 香織（一橋大学附属図書館／社会科学古典資料センター）

講義・実演 「予防的資料保存：今私たちができること」

篠田 飛鳥（一橋大学社会科学古典資料センター）

## 日誌（2022年1月～12月）

- 1月19日 東京都に新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置適用が決定される（21日から適用）。本学活動指針が「レベル1」（一部制限）から「レベル2」（制限（小））となる。センターの運営は2021年4月1日から変更せず
- 1月22日 オンライン・ミニ・シンポジウム「西洋古典籍を巡る書誌と資料研究法の現在—『水田文庫貴重書目録補遺；水田珠枝文庫貴重書所収』を中心に」を「啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究」（科研費基盤研究B）研究グループと共催（アーカイブ視聴期間2月2日～9日）
- 1月29日 本学活動指針が「レベル2」（制限（小））から「レベル3」（制限（中））となる
- 1月31日 『Study Series』No.78: 加藤博・出川英里『19世紀中葉エジプトにおける「遊牧民」家族の構成とサイクル』（電子版）を刊行
- 3月7日 ベルンシュタイン・スヴァーリン文庫脱酸性化処理納品（58冊）
- 3月21日 東京都のまん延防止等重点措置が解除され、22日よりリバウンド警戒期間となる
- 3月23日 令和3年度第3回定例打合せ（Web会議）
- 3月31日 『Study Series』No.79: 吉川也志保（翻訳）『フランス第二帝政期の帝室図書館と帝国図書館に関する委員会議事録（下）』（電子版）を刊行
- 3月31日 『一橋大学社会科学古典資料センター年報』No.42（電子版）を刊行
- 3月31日 馬場幸栄センター助教が退任
- 4月1日 学外者の利用受付を休止する
- 5月13日 令和4年度第1回定例打合せ（Web会議）
- 5月22日 東京都の新型コロナウイルス感染症リバウンド警戒期間が終了
- 5月27日 第23回（令和4年度第1回）社会科学古典資料センター専門委員会（Web会議）
  - 議題1 令和3年度決算報告案および令和4年度予算案について
  - 2 令和4年度事業計画について
  - 3 令和3年度事業報告について
  - 4 センター教員の採用にかかる選考結果について
  - 5 機関リポジトリで公開している所蔵資料画像へのクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの付与について
  - 6 センター年報へ翻訳原稿の投稿について

- 6月 1日 本学活動指針が「レベル1」（一部制限）となる。学外者の利用受付を再開する
- 6月15日～ 附属図書館職員2名への西洋古典資料保存研修を開始
- 7月21日 言語社会研究科学芸員資格プログラム講義「博物館資料保存論」による施設見学
- 8月 1日 東風谷太一センター助教が着任
- 8月22日 メンガー文庫冊子目録のPDF画像をHERMES-IRで公開
- 9月30日 『Study Series』No.80: 高野彰・中井えり子；ミニ・シンポジウム趣旨説明 長尾伸一『西洋古典籍を巡る書誌と資料研究法の現在』（電子版）を刊行
- 9月30日 令和4年度第2回定例打合せ（Web会議）
- 10月26日 西洋社会科学古典資料セミナーをオンラインで開催（アーカイブ視聴期間12月1日～2023年1月4日）
- 12月 3日 オンライン・ミニ・シンポジウム「国内所蔵の西洋古典籍をいかに活かすか—早稲田大学図書館所蔵コルヴェア文庫所収の貴重書を中心に—」を「啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究」（科研費基盤研究B）研究グループと共催（アーカイブ視聴期間12月21日～2023年1月20日）
- 12月15日 北海道地区西洋古典資料保存講習会を北海道地区大学図書館協議会スキルアップセミナーとして開催

### 利用状況（2022年1月～12月）

開館日数	230日
来館者（閲覧者）数	130人
（学内）	118人
（学外）	12人
利用（閲覧）冊数	461冊
（学内）	415冊
（学外）	46冊
文献複写冊数	108冊
見学者数	6人
講習会・研修会参加者数	270人
レファレンス質問件数	5件
学内授業利用回数	0回
学外授業利用回数	0回
館内展示実施回数	0回
館外展示貸出冊数	0冊
学内他部局資料保存修復冊数	235点